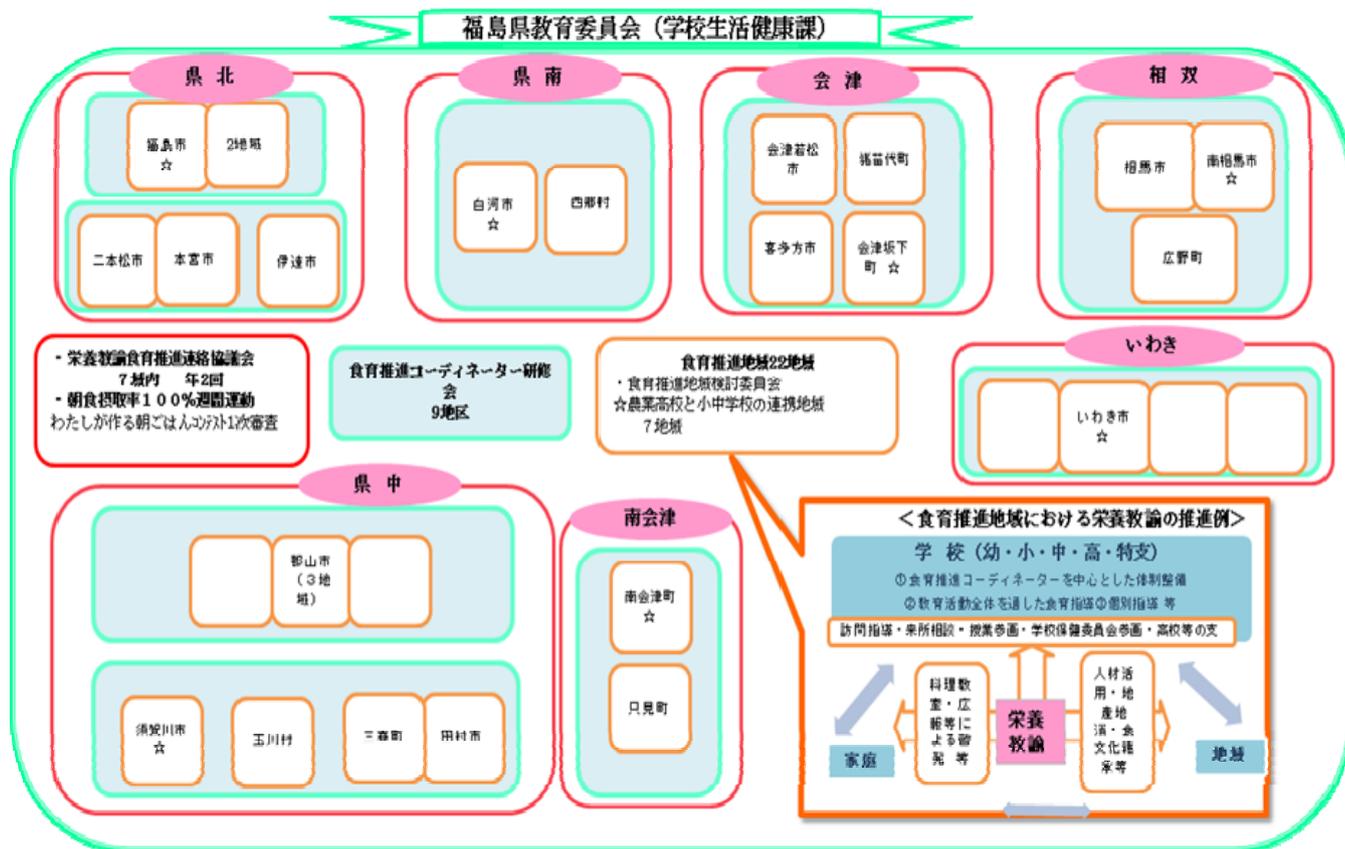


# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	福島県
推進地域名	全域（22推進地域）

## 1. 事業推進の体制



## 2. 具体的取組等について

テーマ1	全県における食育の推進体制の整備	
1	栄養教諭食育推進連絡協議会の開催（7域内ごとに、4月と2月 年2回実施）	
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会においては、事業についての共通理解を図るとともに、栄養教諭の役割について確認した。また、栄養教諭が所属する市町村教育委員会担当者も協議会に参加し、食育推進地域検討委員会の体制整備についても話し合った。	
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会（県北）	4/12 福島県自治会館
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会（県中）	4/14 県中知行振興局南分庁舎
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会（いわき）	4/20 いわき合同庁舎
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会（会津）	4/22 会津地方振興局別館
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会（相双）	4/23 南相馬合同庁舎
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会（県南）	4/27 白河合同庁舎
	第1回栄養教諭食育推進連絡協議会（南会津）	4/28 南会津合同庁舎
	2月の第2回栄養教諭食育推進連絡協議会においては、各食育推進地域での取組みについて発表し合い、各地域の成果と課題について共通理解を図った。	

第2回栄養教諭食育推進連絡協議会 (南会津)	2/ 1	南会津合同庁舎
第2回栄養教諭食育推進連絡協議会 (県 南)	2/ 2	白河合同庁舎
第2回栄養教諭食育推進連絡協議会 (会 津)	2/ 3	会津地方振興局別館
第2回栄養教諭食育推進連絡協議会 (相 双)	2/ 4	南相馬合同庁舎
第2回栄養教諭食育推進連絡協議会 (いわき)	2/ 7	いわき合同庁舎
第2回栄養教諭食育推進連絡協議会 (県 中)	2/ 9	県中知行振興局南分庁舎
第2回栄養教諭食育推進連絡協議会 (県 北)	2/10	福島県自治会館

## 2 食育推進コーディネーター研修会の開催 (県内7域内 9会場で実施)

各学校の食育推進の中心的担い手である食育推進コーディネーターを対象とした研修会を、県内の大学教授及び栄養教諭、主任栄養技師等を講師として実施した。各学校の食育全体計画や各学年の年間指導計画を持ち寄り、食育推進上の課題を解決する具体的な方策について協議した。各学校の食育推進コーディネーターと栄養教諭のネットワーク構築にもつながり、全县における食育を推進するうえで効果的な研修会となった。

食育推進コーディネーター研修会 (県中①)	7/30	サンフレッシュ郡山
食育推進コーディネーター研修会 (いわき)	8/ 2	いわき合同庁舎
食育推進コーディネーター研修会 (県 南)	8/ 4	白河地域職業訓練センター
食育推進コーディネーター研修会 (県中②)	8/ 5	須賀川市産業会館
食育推進コーディネーター研修会 (会 津)	8/ 6	新鶴公民館
食育推進コーディネーター研修会 (相 双)	8/ 9	南相馬市文化センター
食育推進コーディネーター研修会 (県北①)	8/10	福島県庁西庁舎
食育推進コーディネーター研修会 (県北②)	8/11	福島県自治会館
食育推進コーディネーター研修会 (南会津)	8/20	御蔵入交流館

## 3 平成22年度食育関係事業全国連絡協議会への参加

12月6日、文部科学省で開催された全国連絡協議会へ、県教育庁食育担当指導主事と栄養教諭とで参加してきた。福島県の事業事例について、分科会で発表する機会をいただき、本県の取組みについて他県出席者の前で発表してきた。

## 4 栄養教諭研修会の開催 (28名すべての栄養教諭を招集し実施)

事業計画書の中には位置付けていない研修会ではあるが、栄養教諭の研修の場(情報交換の時間)がほしいとの要望を受け、28名の栄養教諭を全員招集し研修会を実施した。

12月6日に文部科学省で実施した「全国連絡協議会」の内容を伝達するとともに、今年度の事業の成果と課題について共通理解を図った。また、来年度に向けた計画についても話し合った。

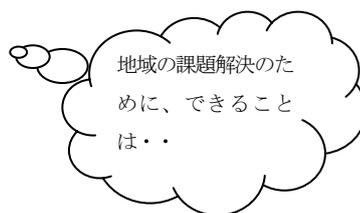
平成22年度 栄養教諭研修会の開催 2/17 福島県自治会館

## テーマ2

## 栄養教諭による各地域・各学校の特性に応じた食育推進

### 1 食育推進地域検討委員会の開催

栄養教諭が所属する地域ごとに食育推進地域検討委員会を立ち上げ、地域の課題解決のためにテーマを決めて取り組んだ。(27名が22の委員会を立ち上げた。)委員には、学校関係者や地元生産者、保護者等が加わり、それぞれの立場から意見を出し合い、課題解決を図った。



<食育推進検討委員会での話し合いの様子>

## 2 栄養教諭受配校等訪問（食にかかわる授業等の実施）

栄養教諭が受配校等に出向き、食育全体計画の実施状況を把握するとともに、各学校の食育を支援した。食の専門家でもある栄養教諭が授業に参加することにより、児童生徒の給食を中心とした食への関心が高まってきている。県の食育担当指導主事も栄養教諭の授業を参観し指導することで、栄養教諭の授業力向上をめざした。

要請を受けた県立高校にも栄養教諭が出向き、高校生のための栄養教室を実施した。

次代の親となる高校生の食育については、各地域とも課題であり、栄養教諭が果たす役割は大きいと言える。



<栄養教諭授業の様子>

## 3 農業高校と連携した豊かな食育体験の実施

県内7域内の農業高校と近隣の小学校及び中学校が連携し、豊かな食育体験を実施した。年間を通して野菜等を栽培、収穫し、調理等の体験活動を行った。調理実習の指導等は栄養教諭が行うことにより、調理体験が充実した活動となった。



栄養教諭の関わりも大切です。

<高校生にジャム作りを教えてもらっている様子>

第1回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(県北)	4/12	福島県自治会館
第1回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(県中)	4/14	県中知行振興局南分庁舎
第1回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(いわき)	4/20	いわき合同庁舎
第1回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(会津)	4/22	会津地方振興局別館
第1回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(相双)	4/23	南相馬合同庁舎
第1回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(県南)	4/27	白河合同庁舎
第1回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(南会津)	4/28	南会津合同庁舎

2月の第2回連絡協議会においては、年間の活動について振り返り、成果と課題について明らかにした。

第2回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(南会津)	2/1	南会津合同庁舎
第2回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(県南)	2/2	白河合同庁舎
第2回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(会津)	2/3	会津地方振興局別館
第2回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(相双)	2/4	南相馬合同庁舎
第2回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(いわき)	2/7	いわき合同庁舎
第2回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(県中)	2/9	県中知行振興局南分庁舎
第2回農業高校と連携した豊かな食育体験推進連絡協議会	(県北)	2/10	福島県自治会館

### テーマ3

### 食を要とした生活習慣を改善する取組み(家庭・地域との連携を通して)

- 朝食摂取率100%週間運動の実施(年2回 6月と11月に実施)  
各学校の実情に応じて上記週間を設定し、栄養教諭等を中心に運動を展開している。6月の調査結果は、摂取率が95.9%、11月の摂取率が96.3%で、回を重ねるごとに摂取率は向上してきている。
- わたしが作る朝ごはんコンテストの実施  
小学生を対象に朝ごはんコンテストを実施し(最終審査日は10月17日)、食べる力・感謝の心・郷土愛の育成を図った。今年度の応募数は3,012点で、昨年度より1,000点以上多い応募となった。各地域ごとに栄養教諭が参加を呼びかけ、事前の指導を行った成果でもある。コンテストの1次審査は栄養教諭が行い、専門家の立場から2次審査進出者を選出した。最終審査に進んだ14名の児童は実際に調理を行い、腕をふるった。



最優秀賞作品  
ヘルシー和風の朝ごはん



試食による最終審査の様子

- 食育推進実践校表彰の実施  
朝食摂取率100%週間運動を中心に食育の成果を上げた学校を表彰した。応募数は、77点で、栄養教諭が関わっている学校はほとんど応募した。内容も充実しており、入賞16校に表彰した。

### テーマ1～3に共通する具体的計画

- 本県の健康課題は「肥満」「う歯」「食物アレルギー」と、食生活と関わることが多い。健康課題を解決するための食育のあり方についても、全县をあげて取り組んでいかなければならない。

#### 本県の健康課題

##### 肥満傾向児(肥満度が20%以上の者)出現率

幼稚園	...	全国(2.70%)	福島県(4.29%)
小4	...	全国(8.60%)	福島県(15.52%)
中1	...	全国(10.29%)	福島県(12.90%)
高1	...	全国(10.32%)	福島県(16.81%)

(平成21年度学校保健統計調査報告書より)

幼稚園から高校3年生すべての学年において、肥満傾向児出現率が全国を上回っている。

##### むし歯被患率

幼稚園	...	全国(46.5%)	福島県(58.1%)
小学校	...	全国(61.8%)	福島県(70.7%)
中学校	...	全国(52.9%)	福島県(61.0%)
高校	...	全国(62.2%)	福島県(72.5%)

(平成21年度学校保健統計調査報告書より)

幼稚園から高等学校において、全国を上回っている。

#### 食物アレルギーの児童生徒の割合推移

学校種間に関係なく増えてきている。



- それぞれのテーマにおける、県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会、栄養教諭のそれぞれの役割について明確にし、推進体制の整備を行っていくことが大切である。
- 「R-P-D-C-Aサイクル」を効果的に行うことにより、課題解決を図っていく。

## 数字で変化のあった事項について

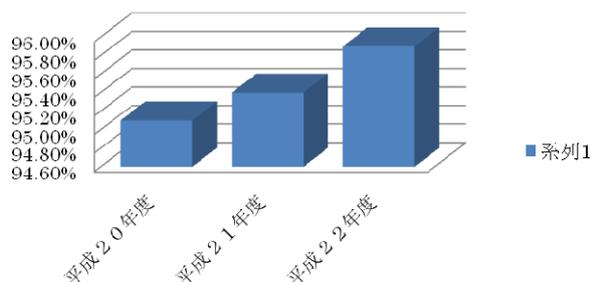
朝食摂取率100%週間運動 摂取率の変化

95.4% (平成21年11月) → 95.9% (平成22年6月)

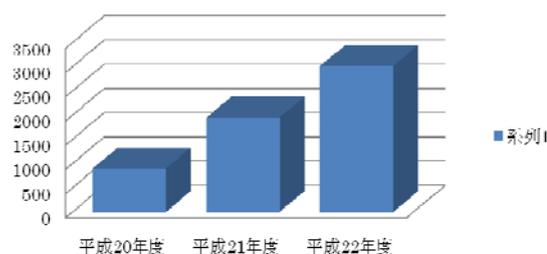
わたしが作る朝ごはんコンテスト応募総数の変化

1,947点 (平成21年度) → 3,012点 (平成22年度)

### 朝食摂取率100%週間運動



### わたしが作る朝ごはんコンテスト 応募総数



## 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 全県における食育を推進していくためには、指導体制の整備が不可欠である。栄養教諭が所属する地域を中心に、22の食育推進検討委員会を立ち上げ、地域の実態に応じた食育を推進したことは効果があった。児童生徒のことをよく知る学校関係者や地域のことをよく知る地元生産者、食育関係者が委員となり、栄養教諭と連携を図りながら地域の食育の課題解決に向けて取り組めたことがよかった。
- 県全体の食育を推進していくためには、各学校の食育に対する意識を高めていくことが不可欠である。各学校の食育推進コーディネーターを対象に研修会を行い、栄養教諭とのネットワークを構築したことで、食に関する指導がより充実した時間となった。また、朝食摂取率の向上からも、各学校の食に関する意識が高まってきていると言える。次年度以降も、各学校の食育を充実させるために、引き続き食育担当者の研修会を実施し、各学校の食育に対する考え方をさらに高めていきたい。
- 朝食摂取率100%週間運動やわたしが作る朝ごはんコンテストは、回を重ねるごとに成果が上がっている。広報誌やホームページ等を活用し、結果を広く啓発したことで、県民全体の意識が高まりつつある。

## 今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- 栄養教諭の負担過重が課題となっている。日常の学校給食業務や衛生管理の他に食に関する指導を行わなければならないので、事業の精選とともに、組織整備のあり方についても検討していかなければならない。
- 間もなく社会に出て自立していく高校生に対する食育の進め方が課題となっているが、栄養教諭がかかわる内容や時間には限度がある。各学校の食育推進コーディネーターの資質向上がさらに必要である。
- 栄養教諭の研修の場(情報交換の時間)がほしいとの要望があがっている。すべての栄養教諭が集まり、一緒に研修できる時間と場を設定していく必要がある。